

都市生活者の私事行動分析

東京大学大学院 正会員 寺部慎太郎
東京大学大学院 木村歩

1. はじめに

都市における交通基盤が通勤や通学といった単なる日常交通を担うだけではなく、休日の観光や仕事後の余暇行動など非日常的な私事交通も担っていることは、十分認識されている。また、都市はそこに存在する店舗、建物、基盤施設、雰囲気などがその都市の魅力あるいは観光名所となり集客力を持っている。このような現象は特に首都圏において顕著であり、休日や仕事後などに通勤・通学トリップと直接関係のない利用者をその地区へと引き寄せる一因となっている。本研究の目的は、都市における私事行動を、個人属性・目的地・居住地域などの視点から分析し、その特性を明らかにすることである。データはジェイアール東日本企画・移動者マーケティング研究会（1997）の「10,000人調査'95」を用いた。これは、首都圏70km圏内に住む約1万人を対象に1週間のダイアリー調査を行なったものである。

2. 私事行動の概要

ここでは、個人属性など基礎的な項目について単純集計を中心に行い、私事行動の概要を把握した。得られた知見は次の通りである。まず全85276トリップのうち私事トリップは20%である。そして全サンプル10020人のうちの58%が少なくとも1週間のうちに1トリップは私事目的の移動を行っている。私事トリップの交通手段は車が57%であり、週末に多く行われている。私事行動がある人の全目的トリップ数は1週間で平均10.8トリップ、うち私事目的は平均2.9トリップである。一方で、私事行動がない人の全目的トリップ数は1週間に平均5.4トリップである。なお、ここで私事トリップとされたトリップ目的は買い物、外食、個人的な付き合い、旅行の他、社会的な付き合い、私用の用足し、通院、けいこごと・習い事等であり、パーソントリップ調査の私事目的にほぼ合致している。

個人属性を私事トリップの有無で比較したところ、私事行動があった人は、女性のほうが多く、運転免許保有者がやや多かった。年齢構成ではあまり差は見られなかったものの、他の調査項目である買い物や生活に対する意識を比較すると全体的にアクティブな人であるという傾向が見られた。

3. 私事目的地の特徴

ここでは私事目的地の特徴を探るため、まず、私事目的トリップの目的地（データより鉄道駅として得られている）を主な駅を中心としたまとまりに集約し、そこから私事行動の多い（20トリップ以上）24地域を抽出した。さらに私事トリップを買い物、遊び、用事の3種類に分け、各地域に訪れる人々について集計し、そのトリップ目的の比率を説明変数にしてクラスター分析を行なった結果、4グループに分けられた。そのうち3種類のトリップ目的が同比率である地域を都心部と郊外部に分けることで、表1に示すようなターミナルの街とサブターミナルの街、ショッピングの街、遊びの街、病院と習い事の街の5グループに分けられた。これらの特徴は以下の通りである。

表1 グループ別私事行動目的地

ターミナルの街	渋谷、新宿、池袋、上野・御徒町、横浜
サブターミナルの街	立川、町田、蒲田、吉祥寺、船橋、柏、川崎、藤沢、大宮
ショッピングの街	日本橋、秋葉原
遊びの街	赤坂・六本木、原宿・表参道、恵比寿、銀座・有楽町、品川、浅草、桜木町
病院と習い事の街	御茶ノ水

キーワード：公共交通、地域調査、観光・余暇計画、ダイアリー調査

連絡先：113-8656 文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻

（TEL：03-5841-6135、FAX：03-5841-8506、e-mail：shin@trip.t.u-tokyo.ac.jp）

(1) ターミナルの街とサブターミナルの街

トリップ目的では買い物目的トリップが多いものの、遊び目的、用事目的の各トリップとほぼ同比率である。都心部のターミナルである新宿、池袋、渋谷、横浜、上野・御徒町では他の地域に比べて用事の割合が小さい。さらに移動時間15分以内で到達しているトリップが40%未満と他の地域に比べて小さく、パーソントリップ調査の大ゾーン別に集計した来訪者の居住地を図1に示すように遠くから来る人が多い。一方で、柏や藤沢、船橋、川崎といった郊外部で来訪者の年齢層が高く、女性比率が高い。つまり、トリップの絶対数が多く駅勢圏の広い都心部ターミナルの街と、郊外部のサブターミナルの街の2種類に分けられる。

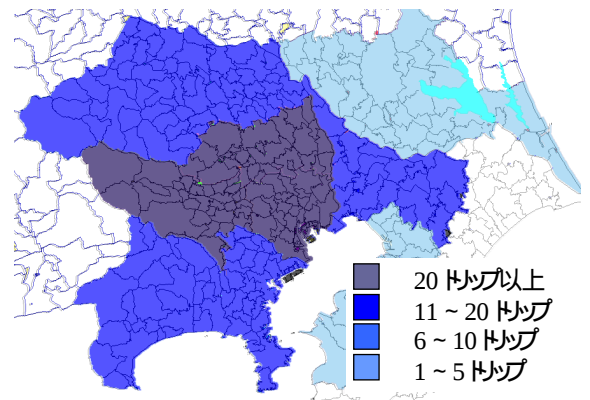


図1 トリップ数別に見た新宿来訪者の居住地

(2) ショッピングの街

日本橋と秋葉原であり買い物目的トリップの割合が70%を超えている。日本橋は老舗デパートが多いため、高齢の人が多く、また女性が多い一方で、秋葉原は電気街という性質上、男性が非常に多い。移動時間が15分以内のトリップの割合が35%程度とターミナルの街と同じ程度低く、遠くからこれらの地域に人がやって来る割合が高いことを示している。

(3) 遊びの街

これらの街では遊び目的トリップの割合が約50 - 70%である。年齢構成、性別比率にはばらつきが多く見られ、他地域のような明確な傾向は見られない。移動時間が15分以内のトリップの割合が40%未満であり、遠くから人が来る割合が高い。

(4) 病院と習い事の街

この街は御茶ノ水で用事目的トリップが57%と多く、特に病院などの利用を目的としたトリップが全体の36%を占める。訪れる人は10 - 20代の若者と50 - 60代の年輩が多い。

4 . 居住地域からみた私事行動特性

ここではサンプルを居住地域別に集計し、私事トリップ数の平均と利用交通機関について比較した。平均全目的トリップ数、平均私事トリップ数ともに、地域によるばらつきは小さい。一方、私事行動におけるトリップ数では東京区部、川崎市を除いては車利用の方が多い。特に埼玉県北部、千葉県、茨城県などでは電車利用のトリップが非常に少ない。

次に居住地域別に前章で挙げた主要24地域へのトリップの割合、及び私事目的の移動時間分布を調べたところ、東京区部、東京都市群部、横浜市、川崎市、神奈川の他の地域、埼玉南部では、その地域内あるいは比較的近距离に特にトリップの多い目的地があることが分かる。しかし、埼玉北部や茨城南、その他の地域では主要目的地への依存度が高く、特にトリップの多い目的地が居住地域から遠いため、前にあげた地域よりも移動時間が長い傾向にある。つまり、電車で近いところに私事目的で行動する場所があまりなく、そのために利用交通機関を車に依存する形になっているのではないかと考えられる。また、千葉西南部、東部では、主要な目的地までへの依存度は低いものの、電車を利用した私事トリップの移動時間は他地域よりも長い。つまりこれらの地域でも、電車で近いところに私事目的で行動する適切な場所がないと言える。

5 . おわりに

埼玉北部や茨城南、千葉西南部、東部において、主要なターミナルまでの依存度は低いものの、電車を利用した私事目的トリップの移動時間は他地域よりも長いことがわかった。ここから、これらの地域にとって、第3章で分類されたサブターミナルの街のニーズがあると言える。つまり、藤沢・大宮・立川・柏などのような中核的エリアが現状よりも近くに整備されることにより、電車での私事目的の行動が増える可能性がある。

参考文献：ジェイアール東日本企画・移動者マーケティング研究会(1997)「動く標的 データ集 基本編」